

二〇九八番

奥山おくやまに住すむといふ鹿しかの  
夕よひな去さらず 妻つま問とふ萩はぎ  
の 散ちらまく惜をしも

二〇九九番

白露しらつゆの 置おかまく惜をしみ 秋萩あきはぎを  
折をりのみ折をり  
て 置おきや枯からさむ

二一〇〇番

秋田あきた刈かる 仮廬かりほの宿やどり  
にほふまで 咲さける秋萩あきはぎ  
見みれど飽あかぬかも

二一〇一番

我が衣あころも 摺すれるにはあらず 高松たかまつの  
野の辺へ行き  
しかば 萩はぎの摺すれるそ